

<研究成果の紹介>

側枝への針金結縛等による「安芸クイーン」の着色促進技術

農業研究所 伊賀農業研究室

1. 背景

「安芸クイーン」(伊賀地域ブランド「伊賀乙女」)は、食味・果粒肥大が優れる高級赤色ブドウ品種として1990年前半から全国に先駆け伊賀地域で導入されています。しかし、この品種は品種本来の果皮色が不揃いで、着色が進みすぎる深色化や着色不良が栽培上の問題となっています。そこで、「安芸クイーン」の着色を促進するために針金結縛と環状剥皮処理を実施し、着色への影響を明らかにしたので報告します。

2. 成果の内容

処理は、側枝の基部にナイフ等で幅1cmで環状剥皮する(癒合促進のためにビニルテープ等で巻いて保護する方が望ましい)、あるいは、太さ1mm程度の針金をプライヤー等で枝へしっかりと結縛し、葉で作られた光合成産物を根などの各器官に送る篩管の流れを遮断するのがポイントで、それぞれ満開1ヵ月後および2ヵ月後に行いました(図1)。このとき、過着果にならないように着果負担を巨峰並(1.2房/m²)に調節することが重要です。

針金結縛あるいは環状剥皮処理により収穫期



図1 側枝への処理状況(2007)
(左;針金結縛 右;環状剥皮)

の果実の着色が促進される効果が認められました(図2)。最も効果の高かった満開1ヵ月後の環状剥皮では、同時に糖度も高くなりましたが、一方で深色化の比率も高くなりました(図3)。

なお、針金結縛の場合は、収穫後ただちに針金を取り除く必要があります。環状剥皮処理後の癒合は通常1ヵ月程度と比較的早く、いずれの処理を行った枝でも翌年も生産を継続することは可能です。

3. 技術の適用効果と適用範囲

三重県内の「安芸クイーン」栽培で着色が不十分な樹に対してはこの技術が活用できます。今回の試験は側枝単位で行いましたが、主幹部への処理も有効です。

4. 普及・利用上の問題点

加温ハウス栽培など例年果粒が深色化する園地では、この技術の導入は控えてください。また、過着果や、べと病などで落葉した場合など管理不十分な樹では、処理を行っても効果が期待できません。

(現園芸研究課 西川 豊)

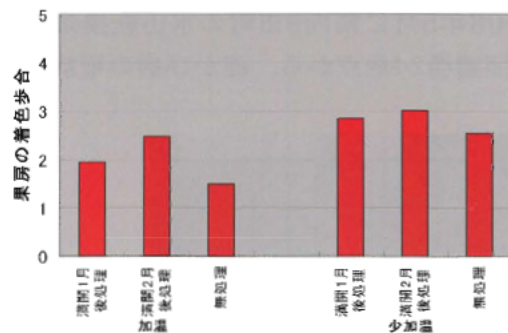


図2 側枝への針金結縛処理が着色期(7/24)の果房の着色歩合に及ぼす影響(2006)



図3 収穫時の果実(2006年)

(左:満開1ヵ月後針金結縛 右:無処理)